

1日当たりの生まれた人数の考え方

「記入シート」に記入したときの
1日当たりの生まれた人数の考え方について解説しています。

4月の1日当たりの生まれた人数について考えてみます。
これは「平均」と同じ考え方です。

- 「4月」に生まれた人数は4月1日から30日までに生まれた人数の合計です。
- これをデータの数、つまり日数で割ると1日当たり平均何人生まれたかを求めることができます。

(例) 2015年4月の1日当たりの生まれた人数

$$\begin{aligned} &= 83410 \div 30 \\ &= 2780.33333\cdots \\ &\div 2780 \text{人} \end{aligned}$$

月ごとに日数が違うことに気をつけて
他の月も計算してみるです～

上級者向け

エクセルを電卓のように使って計算することもできます。

- 入力したいセルに「=83410/30」のように入力し、Enterキーを押すと計算結果が入力されます。
- 数字をセルにすると入力ミスが防げます。
(例: 「=B6/30」 B6は4月の出生数のセル)

☆ 「/」は「÷」と同じように使います。



1日当たりの生まれた人数の考え方②

月別の時に考えた代表値（最大値、最小値、中央値）も同じように調べてみましょう。
月別と1日あたりで結果が変わっているかもしれません。

（2015年度の例）

1か月間で生まれた人数					月別の1日あたりの生まれた人数				
18									
19		人数	月			人数	月		
20	一番多い月 最大値	88,614	7月		真ん中の値 中央値	83,621			
21	一番少ない月 最小値	76,766	2月						
22									
23	1月当たりの生まれた人数（平均値）				1日当たりの生まれた人数（平均値）				
24		83,609 人				2,749 人			

2015年度は、1日あたりでは9月が1番多く、3月が1番少ないという結果になり、
月別の結果は日数の違いの影響があることが分かります。

一方で、並べ替えて見ると、7～9月が多く、1月・3月が少ないということは
変わりませんでした。

他の年度も調べてみて、同じ傾向があるのか、年度によって違うのか、
確かめてみるのもいいかもしれません。

月別の1日あたりの生まれた人数		
データの大きさ順に並べてみよう		
月	出生数	単位
1	3月	2,620 人/日
2	1月	2,655 人/日
3	11月	2,689 人/日
4	5月	2,704 人/日
5	12月	2,720 人/日
6	2月	2,742 人/日
7	10月	2,769 人/日
8	6月	2,773 人/日
9	4月	2,780 人/日
10	8月	2,786 人/日
11	7月	2,859 人/日
12	9月	2,894 人/日